

教養教育の基本的考え方

1. 豊かな教養を育むためには、共通教育センターが設置する講義を中心とした科目と、十分な経験を踏まえた専攻分野の基礎能力の習得を両軸とする「教養教育」をバランス良く実践することが必要です。
2. 多摩美術大学が学生に求める、①物事を幅広い視点でとらえる能力、②キャリア形成能力、③実り豊かな学生生活を送るための目的意識と方向感覚の形成にとって「教養教育」は無くしてはならないものです。
3. これらの能力を身につけるためには、①専攻分野における基礎の習得、②専攻を越えて幅広い分野に触れ、積極的にその価値観を取り入れること、③批判精神を持って、それらを自らの内で統合すること、④語学能力、情報リテラシーなどを活用して、他者に向けて発信できるコミュニケーション能力を習得することが必要です。
4. 共通教育センターと専門学科との連携による「教養教育科目群」により、様々な学習機会を提供します。実践的な能力の形成だけでなく、「いかに生きるか」という本質的な目標を模索する手助けにもなることでしょう。こうした大きな意味を含むものを、多摩美術大学では「教養教育」と位置付け、たゆまず推進します。

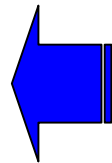
教養教育における専門学科と共通教育センターの役割分担

専門学科においては専攻分野の基礎能力の習得を主たる役割とします。共通教育センターは、専門学科との連携とリテラシーの提供を主たる役割とします。

- ・専門学科は、専攻分野の基礎教育の充実を通じ、教養教育を提供します。
- ・専門学科は、専門教育科目のうち教養的側面を持つ科目を、他専門学科に公開することで他分野に触れる機会を提供します。
- ・共通教育センターは、芸術・デザインを主軸とする領域を統括する講義科目群を形成し、教養教育を提供します（上記の専門教育科目とは性格を異とするものです）。
- ・共通教育センターは、専門学科と連携を図りながらコミュニケーション能力の向上のため、語学、情報技術に関するリテラシー教育を提供します。
- ・専門学科と共通教育センターの連携により、資格関連科目等（保健体育科目、教職・学芸員科目等）を提供します。

※造形表現学部は、各学科設置の専門教育科目を、他専門学科へ公開していません。

※造形表現学部においては、「共通教育センター」は「共通教育」に読み替えます。



美大における教養教育の現在

1. かつて多くの大学では、専門課程に進む前に、基礎的な力や人間性を涵養することなどを目的として、教養課程や教養部を設けていました。
しかし現在では、“基礎的な力”や“人間性”、“教養”に対する万人に共通する認識は希薄になっています。
現代においては、各人が自分なりの生き方を見出し、それに沿った“知”を自分のものにすることが求められています。
2. 美大においても、技術革新やグローバル化などにより表現の領域が広がり、求められる知識は非常に幅広くなっています。例えば先端技術を取り入れた表現は、今日においては当たり前表現方法になっており、数学や物理学、工学などの分野の素養は新しい発想をもたらすと考えられます。その一方で、先端技術を取り入れた表現の揺り戻しとして身体を重視する傾向も見受けられます。
3. このような社会状況を受け、大学における新しい教養教育として、「専門分野の枠を越えて共通に求められる知識や思考法などの知的な技法の獲得や、人間としての在り方や生き方に関する深い洞察、現実を正しく理解する力の涵養」と中教審は、文部科学省に答申しています。
4. 現代は様々なものに恵まれ便利な時代である一方、多くの人が心の虚しさを感じています。そんな中で求められるものは、自らの立脚点を確認し、生き方を探る力であり、それこそが教養であると、私たち多摩美術大学は考えています。
5. 生きた知識に基づく自由な発想を培うことにより、創造的な人間は生み出されます。表現は“知”を求め、“知”は表現を必要とします。美術大学では、十分な経験を通じて対象とじっくり向き合う力によってももの見方を養い、既成概念を打ち破る新たな“知”を切り開いて行く必要があります。また、未来に向かって新しい生き方を社会に発信してゆくためには、それを確かな表現として定着させなくてはなりません。“知”と“表現”とを車の両輪として前進する力を養うことが重要です。
6. このように①様々な教養の在り方、さらに教養そのものに対する是非も含め思考していくこと、②教養（そのものに対する是非も含み）を手に宿るものとして、自らの力にして行くことが、現在の美大における教養教育に求められることであると認識しています。